

民生常任委員会記録

日時 令和8年7月30日（木）

場所 議会会議室

午後 3 時 18 分 開 会

○後藤 啓委員長 それではただいまから、民生常任委員会を開会いたします。

本日の欠席通告者は、高橋千代夫委員です。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

始めに、本日の委員会の趣旨についてご説明いたします。先ほどは、東北公益文科大学の小関准教授から酒田市における地域コミュニティの現状と課題についてご講義いただきました。普段皆さんが市民から聞いている通りの課題もあれば、認識とは少し違った課題もあったかもしれませんが、まずはこの気づきを共有しまして、改めて酒田市における地域コミュニティの課題について整理したいと思います。

1 政策提言「人口減少下の地域コミュニティ～安心して暮らしていける地域へ～」 に係る課題の整理について

○後藤 啓委員長 まず、お1人ずつから感想も交えつつご意見を頂戴したいと思います。

ガンバリーニ杏子委員。

○ガンバリーニ杏子委員 小関先生のお話の感想でもいいですか。先ほど帰りに小関先生と話してた件なんですけれども、最後の方で小関先生がおっしゃった「まちで何かをやりたい若者は割といる」という話で私もそれにすごく共感しまして、若者向けのイベントとか例えば普通の何でしょう、お祭りでも何でもいいんですけど、すればものすごい人数来ますし、今インスタグラムで酒田駅前で30日後に何か盛り上げますみたいなことを言ってるアカウントがあって、何かをしようとしてる人がいるみたいです。多分駅前のラーメン屋。何かイベントをしようとするとか、そういう地域を盛り上げたいまちづくりしたいっていう人々はいっぱいいるんですけど、そこと地域の自治会とかコミュニティ振興会がいまいち繋がらない。そこをどう繋げたらいいのかはすごく迷うところで、実際自治会に行って、私も自治会入って結構夏祭りとか総会とか行くタイプなんですけれど、住んでいても20代30代ぐらいの世代の方々は来なくてその親が来てる。娘夫婦たちは来ないとか。子ども・孫はおじいちゃんおばあちゃんと一緒に来るみたいなのがあって、そのスポンと抜けてる世代からどうもっと参加してもらおうかっていうのが課題感としてあるのかなというのが私の感想です。以上です。

○後藤 啓委員長 続きまして、松本国博委員。

○松本国博委員 ちょっと感想を交えながらお話しますが、今回のテーマは人口減少が頭にくる提言のテーマでいいですね。人口減少なので酒田全般なんだろうけども、今日の説明について先ほどの質問にもありましたけども、過疎対策っぽいなって今日は思いました。ある意味その過疎を今回のテーマでどうするのか。過疎の部分のこともコミュニティの話もして、二重書きっていうか別サイドで、過疎ではないですけど同じように人が減ってる市街地区域の話もどうやって表記するのか。セパレートするのか、同じとおり混ぜてやるのかっていうのはこれから皆さんで協議していくものかと思いますけども、私はですね、この数だと

いかに人を集めて、賑やかにして、いろいろやっていくという部分はあるんでしょうけど、私は人がいるんだけど集まらないっていうふうな先ほどもありましたけど、どうするのかっていう部分があるかと思う。要はちょくちょく皆さんも同じような思いなんだろうけども、大変すぎて、ここに顔出したら抜けられないとか、役がつくっていうそういう部分もあるのかと思ってるので、私はこの新しいコミュニティを考える上では、ゼロベースで、先ほど先生の話にもありましたけども、本当に必要なものは何か。私は安心安全があれば、あとは人付き合いだったりするのがおまけであって、そこを強要するところまでいくと、果たしてそこに家を建てたり住んだりしたいのかなって。要は逆にそれが不可欠になってはいけないと思ってるので。ある意味上からお願いする仕事もありますけども、あんまりこのボリュームはないような感じで、これからコミュニティっていうのは成り立っていかないと、進んで大変なところには私は住まないのかなと思ってるので、そこら辺もう少し掘り下げていかなければならないと思ってます。ただ、我々市政を見ていると、いつも何かあるとコミュニティ振興会の方に、例えば空き家をお願いしますとかだったり、こういうことをお願いしますって市の職員がしてもおかしくない部分もお願いしてる部分があるので、なかなかそこら辺の中間の部分をしっかり考えなきゃいけないのがこれからこの提言にはあると思っています。難しいところがありますので、そこら辺をだんだん少し考えながら、この提言というのを作っていかなければならないのかと思っております。

先ほどありましたように、要は若者もこれだったら手伝えるんだけど、という部分をちょっと引き出すような提言もしていかなければならないかと思っております。それで後藤仁委員がおっしゃってましたけども、そういうコミュニティ振興会のトップとか自治会のトップとかの話も大切ですけど、一般の市民の方々がコミュニティを本当にどう思ってるのかっていうのを拾わないと、やはり上の話だけの提言になってはいけないと思っております。そこら辺の話も聞く必要があるのかなと思っております。私からは以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。佐藤猛委員。

○佐藤 猛委員 冒頭今日の講演の中で、いわゆる共創・協働まちづくりとか、それから地域づくりだとかの優先順位が、市民の関心度合いから見ると極めて低いということが紹介されました。それについてこの委員会で発信していく、この大変さとか重要さという両方あるんだと思いますけれども、避けては通れない事案ではあるものの、実際市民の皆さんの関心が高いか低いかにいえば極めて低い。関心を持ってる人は本当に自治会長をやらなきゃならない人が順番で来たとか関わってる人がやらざるを得なくてやっているとこの実態。でも一方、ゴミの問題から安全安心の問題から地域の防犯から絶対大事なテーマでもあるにも関わらず実際の市民の感覚は関心の度合いは低い。これについて委員会としてどう発信していくかというところは、しっかり議論をしていかなければいけないんだろうというのがまず第1点です。そういった意味では非常に重要なテーマである割には市民の皆さんの関心が低いということにまず注目をして、しっかり議論を尽くしていかなければならないんだろうなということがあります。

それから前のお二方の言ったことは非常に重要なことだと思っていまして、一例挙げれば私の妻と娘がしゃべってる会話は、私から見れば外国語なんですね。何を言っているかわからない。いわゆる今流行りの歌の話から映画の話から、全く言語が通じない。それと同じように、ガンバリーニ杏子委員がおっしゃったように、今日の講演でもあったように、ヒット

するところに行けば、ものすごい関心あるんですけど、ちょっと違うと全然もう耳にも入らない。自治会の活動ってのは全くそのとおりでありまして、大事なのにほとんど若者に届いていない。そういうところもやっぱりどうしていかなきゃなんないかということもそうだし、松本国博委員おっしゃったように、やっぱり今まではこうだったってことを、そのまま押し付けても多分やってくれない。やる人自体がいない。先ほどから申し上げてますけど、白鳥を愛する会の組織存続も危ぶまれる。やってる人たちは80代の人たち。この間ある人から言われたのは、もっと広く会員を募るべきだと。自治会長イコール白鳥を愛する会の会員じゃなきゃいけないというふうな、そういうことでは誰もついてきてくれない。そうじゃなくてこういうことに関しては、野鳥を愛する会であったりとか自然を愛する会とか、そういったことに対して本当に関心を持って、時間もお金もつぎ込んでくれる。わざわざ飛鳥島に来るぐらいのそういった関心があるわけですので、そういったふうにして会を作るべきじゃないかというアドバイスもありました。そういうことからして、このことについてもどうやって若い人たちに届くようなメッセージを発信できるか。この委員会としてしっかり議論していかなければならないなということを今日改めて感じました。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。佐藤弘委員。

○佐藤 弘委員 地域コミュニティの最大の課題は人だと思います。というのは、地域コミュニティがうまくいってるところはそれなりの人がちゃんと活躍している。そうじゃないところは、残念ながら数合わせになってしまっています。前者に関してもすごく活躍してる人に頼りすぎているところは、一見運営がうまくいっている感じがするんですけど、その人がいなくなればその地域コミュニティが崩壊しがちです。本当に例えば、周り番で役員を決めてるところは衰退するしかないんだけど、本当に活動してる人は次から次へと活動している。でも、その人がいなくなれば、その地域もかなり衰退するんであろうと。その点、その人が活動するのはいいんだけど、地域を見て後輩に引き継ぐのも1つの活動だと思うんです。ある程度活動を次の世代に送ることも1つの方法かなと思います。ただ、それはやっている人にとっては非常に苦しいケースもあると思うんです。自分はもっとやりたいんだけど、後輩に道を譲らなきゃならない。それも含め、やっぱり人を育てることがコミュニティを育てることに繋がるのではないかということで、委員会としては人をいかに育てていくかということが大前提だろうと私は思います。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。市村浩一委員。

○市村浩一委員 今日先ほどちょっとお話をさせていただきましたけども、また後で後藤仁委員ともちょっとお話をさせていただきましたけれども、やはりそのエリアで、先ほど言った私たちの三中学区、それから人がまだまだいるというエリアと、やはり八幡平田松山地区などの人数が少ないところと、同じような自治会活動のあり方を考えても、ちょっとやっぱり手法が違うんじゃないかと私は思います。商店街に住んでらっしゃるガンバリーニ杏子委員も多分違うと思う。多分そこは商店街の皆さんのまちづくりといいますか地域づくりを考えているんだというふうに思います。あとは私達のように住んでる人間たちは自治会がありながらやってるというところで、やはり同じようなことをそれぞれの地域でやっても多分合わないというふうに思うので、その辺をどういうふうにして見分けていくかっていうのは非常に難しいのではないかなというふうに思いますので、それぞれのやり方があるのかもしれませんが、やっぱりちょっと今どういうふうにして答えを出していいのかよくわかり

ませんが、私ちょっと今同じような手法では全部を網羅できないのかなというふうにして感じました。

それから、今佐藤弘委員から人づくりというお話もありましたけども、やはり参加意識を持つためには、子どもがいる地域であれば小さい頃からやっぱりその地域の活動に参加していると、大人になれば小さい頃こうやってやってたなっていう話はできるんですが、やっぱり先ほどから言っております市街地だとアパートに住んでいらっしゃる方たちもいるので、その辺の方たちだと子ども会費は払うんですけども町内会費は払わないんですよ。子ども会には参加するけど町内会には参加しない。だからその辺もちょっと難しいところであって、そういったところの意識づけをどうしていったらいいのかなというのが1つの課題だというふうに思っております。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。後藤仁委員。

○後藤 仁委員 松本国博委員、市村浩一委員からもありましたとおり、コミュニティの人口が違います。例えば、令和7年国勢調査で平田地区5,055人、そこに5つのコミュニティがあります。平均すると1,000人。松山地区3,403人、そこに4つのコミュニティがあります。それと別に先ほど市村浩一委員からもあった通り、三中学区は2万人の中に3つ。すると、やはりコミュニティという機能がそれぞれの地域で違うということを踏まえた議論を議会でやっていかないと市民の皆さんからの理解は得られないと。これは自治会にも言えます。そこら辺はまず第1点押さえながら、これからの議論をすべきだと思います。先ほどちょっと研修会では暴論的なこと言いましたけれども、やはり時代の流れっていうか、今の人口減少というのは、最近私自治会関係の会議に参加してつくづく思うのが、いいともう10年ぐらいしかないなど。自分がですよ。というふうに割り切っていくと、関係人口だとか面倒くさいのはいらない。やはり今住んでいる我々がこの地域で幸せに過ごすことによって、その姿を子どもや孫に伝える。そういうふうに割り切ろうというふうに私は最近考えてます。そんなに外のものを取り入れようというものじゃなくて、今住んでいる人たちが何をやって楽しいのか、無理がかからないのか。やっぱりそういうふうな視点も、我々のこれは1人1人の生活感というか、それでいいんだと思います。そういうふうな議論をさせていただければというふうに思います。以上です。

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。

それでは今まで、「参画したい若者はいる。コミュニティとどう繋げるか。」「過疎が進んでいる地域、市街地との違い。」「人はいるけど参加しない。」「コミュニティの役割は必要最低限。」「市からの委託業務の負担」「まちづくりへの市民の関心の低さ」「若者の関心をどう引き付けるか。どう発信するか。」「属人化する役員、次世代への人づくり」「旧3町、旧酒田市、それぞれへのアプローチの違い」「自治会への加入するメリットをどう伝えるか。」「地域ごとに課題が異なる。」「今住んでいる住民の幸福感を高めるには」ということで、様々なご意見をいただきましたけども、若者関連と、地域ごとの違いということ、あとはなんでしょう。3つぐらいにまとめたいと思うんですけども、どのようにまとめたらよいでしょうか。

○松本国博委員 委員長の考えは。

○後藤 啓委員長 私は先ほども言いましたけども、K I T A B Aの多世代による運営とか分散型の運営っていうのは、なかなか、当然市街地の地域だと人口があるんでできるんでしょ

うけども、やはり旧３町地域では、世代が分断してるんでできないのかなということは思っております。あと、そもそも若者がいないんですけども、若者がどうやって自治会、あるいはコミュニティに参加してくれるかっていうことは思ってます、うちも息子はもう市内にいてあまり強いことは言えないんですけれども。それでも明後日土曜日、自治会の納涼会あるんですけど、それには来いよと言っております。ですのでいくらかでも子どもたちには、昔住んでた地域に関わりを持ってもらいたいと思っているところです。みんな子どもに押し付けるわけじゃないんですけれども、関わりを持っていただけるような行事、あるいはそういうものを継続できるような体制を作れないものかというふうに思っております。

先ほどのガンバリーニ杏子委員も参加したい若者はいるということなんですけども、うちの方の協力隊の皆さん非常にやる気はあるんですけども、なかなかそれについてきてくれるかどうかというのは不安なところはあります。

暫時休憩します。

午後 ３ 時 ４ ２ 分 休 憩

午後 ３ 時 ５ ０ 分 再 開

○後藤 啓委員長 再開いたします。

皆様方からご意見頂戴して、まず整理する方法として、やはり共通課題と、あと市街地域、旧公民館地域、旧３町地域で抱える課題というふうなところと、若者参加のところと３点ぐらいで課題としてまとめたいと思いますけども、よろしいでしょうか。

（異議なし）

○後藤 啓委員長 ありがとうございます。

それではまとめましたら、また次回の委員会の方でお示ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

２ その他

○後藤 啓委員長 次にその他に移ります。暫時休憩いたします。

午後 ３ 時 ５ ０ 分 休 憩

午後 ４ 時 ６ 分 再 開

○後藤 啓委員長 それでは再開いたします

他に委員の皆さんから何かございませんか。

（ な し ）

○後藤 啓委員長 それでは、これもちまして、民生常任委員会を閉会いたします。長時間ありがとうございました。

午後 ４ 時 ７ 分 閉 会